

各懇談会での意見まとめ

学生懇談会

団体懇談会

地域懇談会

各種懇談会 意見を踏まえた今後の重点課題

学生懇談会（平成 26 年 9 月 9 日）

グループ別討議の概要

A グループ

（１）若者が定住したくなるまちの要素（重要要素は下線）

安全安心について

- 治安が良いまち

公的施設について

- 施設が充実しているまち（保育園、公園、学校）
- スポーツ施設の充実しているまち（利用料金、場所）
- 診療所があるまち

食について

- 食事に不自由しないまち
- スーパー、コンビニがあるまち

交通アクセスについて

- 交通の便が良い、都心へのアクセスが良いまち
- 遠方への公共交通機関が充実したまち

経済について

- 家賃が安いまち
- 税金が優遇されたまち

持続可能性について

- 将来性のあるまち（福祉・衣食住・就職等）
- 公害がないまち

自然について

- ある程度緑もあるまち

コミュニティ・協働について

- 変なしきたりや慣習がないまち
- 地域の人同士のコミュニティがあるまち
- 自分の地元に誇れるモノがあるまち（スポーツチーム（Ｊリーグなど）、グルメ）
- 様々なイベントが開かれているまち（若者向け、気軽さ）

娯楽について

- 様々なイベントが開かれているまち（若者向け、気軽さ）
- スポーツ観戦ができるまち

まちのブランドについて

- おしゃれなまち（スポット）
- イメージキャラクターがいるまち

（2）若者が定住したくなるまちの実現に向けた強み・弱み（重要要素は下線）

（a）強み

安全安心について

- 静か
- 閑静な住宅街
- 治安がよい

公的施設について

- 医療施設が充実している（救急多い）

教育について

- 文教地区である
- 学校が多く学生が多い

交通アクセスについて

- 中央自動車道がある
- 自転車が走りやすい

自然について

- 緑が多い
- 大学通りの桜がある

コミュニティ・協働について

- 高齢者の積極性がある（国際ボランティア）
- 市役所の向上心がある

まちのブランドについて

- まちのステータスがある
- 周辺地域の利便性が高い

(b) 弱み

公的施設について

- 南北のギャップがあり、南部にも魅力がほしい

交通アクセスについて

- 遠方への交通アクセスの弱さ
- 都心まで結構時間がかかる

経済について

- 地価が高い(良いところが多いから仕方がない)

まちのブランドについて

- 知名度が低い
- 「国立といえば 」がない

Bグループ

(1) 若者が定住したくなるまちの要素

まちの雰囲気について

- 治安が良いまち
- きれいで整備されているまち
- 街灯がきちんと整備されている明るいまち
- オシャレな雰囲気のまち
- ある程度区画整理されたまち

交通について

- 公共交通機関から近いまち（駅・バス）
- 高速道路の近くにあるまち
- 車での移動が行いやすい環境が整備されているまち（駐車場）（子育てを意識）
- 交通の便がよいまち
- 歩いても自転車でも交通の便がよいまち（都心へのアクセス）

子育てについて

- 保育所に困らないまち
- 病院が充実しているまち（診療科種別）

買い物について

（日用品）

- 大きなスーパーが近くにあるまち
- 日々の生活に必要なものが買える環境が集地的にあるまち（半径100m）（SC or 商店街）
- 商業施設が充実しているまち

（ファッション）

- 若者がいくお店が多いまち（ファストファッションなど）（立川まで行けばあるもの/新宿・吉祥寺/大きいお店にいろいろ入っている）
- 買い物がしやすいまち（服）

（飲食）

- ある程度飲食店があるまち（できればチェーン店以外が多い方が良い、ファーストフード・喫茶店なども）

レクリエーションについて

- スポーツ施設があるまち
- 体育施設が充実しているまち
- 一息つける場所があるまち
- 大きな書店があるまち

- TSUTAYA があるまち
- 公園等の遊び場があるまち

地域参加について

- 閉鎖的ではない雰囲気があるまち
- 若い人が多いまち
- 安全にくらせるまち（地域ボランティア/防犯/地域のつながり）
- 地域住民とのつながりがあるまち（気軽にきける/グループ/外から来てもコミュニティに参加可能：参加したい行事は教育関係のイベントやマラソン大会など）

物価・家賃について

- 家賃が高すぎないまち
- 物価が安いまち（家賃含む）

景観について

- 見晴らしが良いまち

（２）若者が定住したくなるまちの実現に向けた強み・弱み（重要要素は下線）

（a）強み

生活インフラについて

- 公園が比較的多い
- 歩行者にやさしい（モラル/自動車が止まってくれる。出身地の 栃木県は止まらない）
- 自転車用の道がある（大学通り）（もっと増やしてほしい）
- 川崎市と比べれば駐輪場が多い

地域ごとの特徴について

- イキイキしている地域（国立周辺）と落ち着いている地域（谷保）の2面性がある
- 駅前のカフェがオシャレで他の店とは違う（スタバ）
- おしゃれな飲食店が多い

矢川駅周辺

- 昔ながらの雰囲気がある

国立駅周辺

- 緑が多い
- 雰囲気が良いイメージがある
- 区画整理されていてきれい
- 雰囲気がいい
- 治安が良いイメージがある

暮らしやすさについて

- 少し遠くに行けば様々なお店がある（なんとなく）
- 暮らしやすい環境が整っている（住みやすい）
- 小さな病院が充実している
- ゴミの回収が楽
- 何となく住みやすい。すごく住みやすいわけではない

高齢者について

- 高齢者が元気（高齢者が多い）

(b) 弱み

日用品について

- スーパーがあまりない
- 日用品における買い物ができる施設が充実していない（布団カバーなど）(国立駅周辺)
- 買い物に不便（立川、国分寺 駐輪場がない）

生活インフラについて

- 公園が少ない（子育て）
- 歩道が狭い
- 自転車がないと移動しにくい
- 車のスピードが早いこともあって危険（モラル/インフラ）
- 道が狭い（府中インター/甲州街道）
- 一方通行が多い
- 総合的な体育施設がない
- 都心から遠い
- 学生街なのに飲食店が少ない

地域ごとの特徴について

- あかりが少ない（暗いイメージ）
- 谷保駅周辺がさみしい（谷保が暗い）
- 住宅街が静かすぎる（暗い）
- 街灯が少ない
- 一部の地域だけ整備が行き届いている（国立駅に偏っている）
- 南北のギャップがあり、南部にも魅力がほしい
- 不審者がよく出る（東京女子体育大学付近）

地域参加について

- 若者でも参加できるイベント、地域活動の情報がない
- 地域のつながりが強いイメージはあまりない
- 国立ならではのウリ、イベントがない

- 天下一のような大きいイベントが少ない
- イベントがない。地域のつながり不足しているかもしれない。目に見えないのでわからない

物価・家賃について

- 家賃が高い（小金井などに比べると）

高齢者について

- 年寄りが多く活気がない

景観について

- 見晴らしが良くない

C グループ

(1) 若者が定住したくなるまちの要素（重要要素は下線）

自転車について

- 自転車専用レーンが整備されているまち
- 自転車を自由にとめることができるまち

運動について

- 無料で使える体育施設があるまち
- 運動ができる体育施設があるまち

自然について

- まちなみがきれいなまち
- 緑が多く、自然が豊かなまち

治安について

- 治安がよいまち

店舗について

- 買い物（服等）ができるお店があるまち
- 商店街が充実したまち
- 安くておいしいランチが食べられるまち
- 安価で食事ができる飲食店が多くあるまち
- 学校以外の居場所があるまち
- 美味しいごはん屋さんがたくさんあるまち（高くなく）

行事について

- 花火大会など祭りや行事があるまち
- 地図など案内板や催し物のお知らせなどの掲示が親切なまち

駅について

- 駅が大きいまち

交通について

- 都心にアクセスが良いまち
- 交通の便が良いまち

仲間について

- 若者が多いまち

- ほどよく人が集うまち
- 同じ年代の人達が住んでいるまち
- まちの人と交流があるまち

経済・物価について

- 家賃に幅がありニーズに合わせて家を選ぶことができるまち
- お金がかからないまち（物価が安い、手当が豊富など）
- 物価が安いまち
- 家賃が安いまち

イメージについて

- 「住みたいまち」というブランドイメージがあるまち

その他について

- 市役所が近いまち

(2) 若者が定住したくなるまちの実現に向けた強み・弱み（重要要素は下線）

(a) 強み

治安について

- 他の地域に比べ、犯罪率が低く安心して住むことができる

名物について

- カフェが多い
- 国立名物がある（ザイカレー、かきあげ丼）

市の面積について

- 面積が小さい
- （小さいまちだからこそ）人とのふれ合いが身近で良い

利便性について

- 都市化の不完全さと都心部へのアクセスの良さが合わさり、居住面で優れている

まちの雰囲気について

- 駅前にたくさん木が植えられている（桜）
- 落ち着いた雰囲気で暮らしやすそう
- まちの雰囲気が良い（自然豊か/高いビルがない/ほどよいにぎわい）
- 田園風景が残っている
- 桜がキレイ

伝統行事について

- 伝統行事が残っている
- 天下市という大規模な行事がある

教育について

- 保育施設が人口のわりに充実している
- 学校など教育機関が多い
- 学習塾が多い またそのレベルも高い(らしい)
- 教育機関が充実している
- 子育て支援に力が入っている
- 学業の神様がいる

駅について

- 国立駅周辺ばかりが注目される

(b) 弱み

治安について

- 変質者が多い
- 自転車の取り締まりがやたらと厳しい

名物について

- 名所、名産品がない

利便性について

- 遊ぶ場所がない(遊びに行こうとは思わない)
- 遊べるお店が少ない。ごはん屋も
- 静かな街のイメージの通り、遊ぶ場所があまりなく若者が集まりにくい
- スーパーがあまりない
- 都心から遠い

まちの雰囲気について

- 建物が全体的に古い
- 道が狭い
- 公園が偏っている
- 独自の政策が少ない(自然の多さを生かす)

経済・物価について

- そもそも高いイメージがある
- 税が高い
- 家賃が高い

D グループ

(1) 若者が定住したくなるまちの要素

まちのインフラ（ハード）について

- 交通が便利なまち
- 自転車レーンがもっと広いまち
- 道が広いまち
- どこに何があるかわかりやすいまち
- 駅前に自転車が無料で停めることができるまち
- 広い公園があるまち
- 自然が多いまち
- 散歩ができるような緑の豊かなスポットがあちこちにあるまち
- 道路や自然が多くきれいなまち

まちのインフラ（ソフト）について

- 治安が良いまち
- 先進的な取組をしているまち（カッコいいイメージ）（例）フリーWiFi

子育てについて

- 子どものあそぶ場所が多いまち
- 子どもが様々なことにチャレンジできるまち（プレイパークキャンプなど体験）

生活について

- 物価が安いまち
- 家賃が安いまち
- 一人暮らし用の物件が多いまち

買い物・店舗・遊ぶ場所について

- 近くの駅にデパートがあるまち
- 遊べるところが多いまち
- コーヒーのあるまち
- 夜、一人で入れるご飯屋さんがあるまち
- 個性のある小規模なお店がたくさんあるまち
- コンビニ、スーパーが多いまち
- ファーストフード店がたくさんあるまち
- 安くおいしい弁当屋または定食屋があるまち
- 夜遅くまで開いているクリニックがあるまち
- 徒歩圏内に夜遅くまで開いているスーパーがあるまち

文化について

- たのしいイベント（祭りとか）があるまち
- 笑顔が多いまち
- まちのことをよく知っていて、みんなが街のことを気にかけているまち
- 地域のお祭に若者が気軽に参加できるまち
- 宗教勧誘がないまち

交流について

- 店主と仲良く飲みに行けるまち
- 様々な人が接することができるまち
- 同世代とのつながりがもてるまち
- ホームだと感じられる場所。知っている人が集まっているところがあるまち

交通アクセスについて

- 通勤しやすいまち（都心へのアクセス）
- 土日遊びに行きやすいまち（都心へのアクセス）

その他について

- 市役所機能を使いやすいまち（土日開設、駅前出張所）
- 就職の幅があるまち
- さびれていないまち

（２）若者が定住したくなるまちの実現に向けた強み・弱み

（a）強み

まちのインフラ（ハード・ソフト）について

- 歩きやすい、お店とわかりやすい
- 道が平たんで自転車で移動しやすい
- 無料の自転車置き場がある
- 大学通りがすごくキレイ
- 自然が多い
- 桜がきれい
- 治安が良い
- 谷保駅から南の雰囲気がすき（急に大きなショッピングモールがあったり）
- たまにドラマとかの撮影に使われる
- プレイパークがある
- 児童館のキャンプが自由（肉が使えたり自由に色々できる）

買い物・店舗・遊ぶ場所について

- ロージナやつり舟、インディアンなどのおいしい個人経営店がある
- おしゃれな小規模店舗が多い

文化・交流について

- 地元の人が多く地元愛が強い
- 市民の教養が高い
- 学園都市で若者が多くいる
- 小学生、中学生、高校生をよく見かける
- 市民活動がさかん
- 国立市に関心がある人が多い
- 祭りがたくさんある
- 障がい者の方も同じ街に住んでいる、一緒に暮らしている

交通アクセスについて

- 立川が近い
- 都心からの終電がおそくまである

(b) 弱み

まちのインフラ（ハード・ソフト）について

- 道幅が狭く移動しにくい（自転車レーンせまい）
- 自転車の駐輪をすみやかに撤去
- 車が通りにくい
- 夜は裏路地など少し暗い
- ボールを使える場所が少ない（公園）
- 街のおしゃれさをもっときわめたらいい
- 自転車を無料で止められる場所が少ない
- 学童施設が少なく古い

買い物・店舗・遊ぶ場所について

- 娯楽施設が少ない
- ゲームセンターを作ってほしい
- 友達に来てもらえない（店があまりない）
- 駅前に寄り道できるところがほしい
- 谷保駅以南に何もなし
- 国立駅周辺以外はすぐに閉まってしまう店舗が多い

文化・交流について

- 宗教施設が集積している

交通アクセスについて

- 都心へのアクセスが悪い
- 新宿以外が遠い、おしゃれな中目黒とか代官山とかが遠い

- 公共交通、バスが不便
- 湯らの里のアクセスが悪い

住宅環境について

- 安い若い社会人向けのマンションがない

まちのイメージについて

- 国立という名前がよくない
- 「コクリツ」と間違えやすいため、「くにたち」と改名した方が良い
- 高齢者が多そうなイメージなど、どんな人が住む街かわからない
- おしゃれなまちなのか学生街なのかブランドイメージが統一されてない

以上

団体懇談会（平成 26 年 9 月 22 日）

グループ別インタビューの概要

グループ：産業・観光振興関連、地域金融関連

（１）今後も引き続き、市内で事業を展開していく上での課題

< 共通課題 >

まちの基盤づくりが重要

立川や吉祥寺は百貨店のまち、国立は専門店のまちといわれるが、地域全体としてトータルでの展開ができていない。地域力としての連携が少ない

財政的な措置は重要であり、民間の力をもっと活用しながら展開していくことが必要

高齢化により購買力が低下してきている。企業や学生との連携、マッチングが必要

「国立らしさ」を強化していくためには、もっと産業基盤をしっかりとっていくことも必要。これまで市の政策としての産業振興は、インフラづくりが中心という偏りがあった

産業振興に関しては他市に比べて予算の比重が低いように感じている。もっと民間と行政とが協力しながら取組を推進していくべき

例えば吉祥寺では、吉祥寺活性化協議会（40 名程度）を設立し、JTB や駅長、商工会、学校、金融機関など業種間連携できる仕組みがある。まちづくりと一緒に、民主導で考える場、横連携を図っていくなどの取り組みも参考になるのではないかと

歩道の狭いところがあり、安全確保が必要

< 個別課題 >

・観光

国立市の観光を考える上では、生活の場と観光との関係性を上手く保つことが重要。生活の場でもあるため、あまり人が来すぎれば、まちのブランド力をかえって下げる可能性もある。安全・安心のまちを保ちながら、観光のまちとしてのPRしていくことが大切

・商業

以前は地元商店の利用者が多かったが、近隣の大型店に人が流出

子どもたちが地元商店を使わない、知らない。地元商店が交流・情報交換の場となり、子どもたちを見守ってきた部分もある。地域コミュニティの低下にもつながってしまう

防災まちづくりの観点でも、地元商店の重要性は高い

地元商店と大型店では、谷保地域のように上手く共存しているところもある。規模や営業時間等の調整など、お互いに共存していくための交渉なども必要

地元商店では担い手の高齢化が進んでいるが、世代交代がなかなか進まず閉店する店舗も多い。

しかし、小売業では国立市で新たに起業したいという人は少ない。飲食業くらいではないかと

生鮮三品などが買えるお店も誘致していくことが必要

特に富士見台地域では、商店が減少

地域ブランドとしての「国立スタイル」は、もっと観光協会と行政との連携が必要

・農業

生産者の高齢化とともに農地が減少してきている。平均年齢が 70 歳代であり、相続税が高くて農業を続けられない状況にある

生産物の価格が低下してきており、6 次産業化や飲食店・加工業者等との連携による展開が必要。連携先として、国立市だけに閉じるのではなく、広域での連携も必要

「JA 東京みどり」では、担い手育成のために、就業や職業教育を推進。また、高齢者向けの体験農園などによる健康づくり、コミュニティづくり等を展開。国立市外からの参加も多く、国立の幻の野菜などの栽培もあるなど、もっと国立の価値の見直しを図っていくことが大切

(2) 課題解決に向けて必要と考えられる取組

< 共通課題の解決に向けた取組 >

・消費者にもわかりやすいブランドイメージの強化

地元企業がつぶれないように、国立で商売をしたいと思わせるブランド力をいかに発揮していくかが重要であり、地産地消など地域をもっと活用していく取組が必要

商工会、JA、観光協会、信金、行政連携により、消費者にとって分かりやすい、1 つのまとまったブランドイメージづくりを推進

・魅力の掘り起しと発信

観光面では、地域資源の掘り起こしや魅力の発信をしていくべきである。地域資源の掘り起こしでは、さくら並木などは話し合われているが、それ以外がない

魅力発信の方法として「国立インデックス(ホームページや facebook も展開)」において情報発信しているが、運営にかかるコストが課題となっている。地域でもっと盛り上げ・機運を高めていくべき

・地域力の強化

地域資源の掘り起こしや魅力の発信にあたっては、団体力を発揮していくことが重要。そのためには、行政がリードする部分も必要ではないか

・既存の取組の効果的な活用

「くにたち野菜」は地産地消、生産者が見える、新鮮で安心なという部分が売り。もっと地域野菜の活用を推進していくことが大切

東京都の食材を使った店の PR をしてもらえる仕組みもあるので、上手く活用していくことが必要。花まつりの実施方法の見直しを図っていくことも必要。市民や園児などが発表の機会を持つことができ楽しんでおり、イベントの内容の見直しをしていくことも大切

・市内での買い物促進のための仕掛けづくり

買い物客が高齢化してきており、宅配サービスや代行サービス(矢川では設立に補助を活用しながら既に展開)などの導入も必要

市内でもっと買い物をしてもらえるような仕掛けづくりが必要。価値のあるもの、商店や製造業も含めて国立にしかないものをウリにしていけることが必要

- ・ **空き店舗・空き家の活用**

空き店舗や空き家対策などは、個別に取り組むのではなく、全体の最適なまちづくりを考えるべき。例えば、駐輪場や外国人向けの宿などとして活用するなど、地域にとって必要な用途に上手く活用していくことが重要

- ・ **まちの景観の維持・改善**

さくら並木の老朽化なども進んできている。観光面でまちの景観をどう維持・改善するか、どうあるべきかを計画に盛り込むべき

- ・ **安心・安全の確保**

お年寄りへの集金の際に生活見守りや防犯（振り込め詐欺を含め）など、市民にとっての安心・安全確保に向けた取り組みができるのではないかと

防犯対策として、商店街で防犯カメラの設置についての要望がある。地元と行政が一体となって取り組むことが必要

グループ : 医療・福祉関連

(1) 今後も引き続き、市内で事業を展開していく上での課題

< 共通課題 >

人口推計上はまだ先のようなのだが、高齢化の影響は確実に現れてきている（高齢単身世帯や高齢者のみ世帯の増加、空き家の増加、特養等施設待機者の増加等）

地域の関係が希薄化しておりコミュニティの維持が困難。

高齢者は自分のことで精一杯、若い世代は多忙なため、地域の支え手が不足

個人情報保護を名目に、要支援者（や社会的弱者）の情報等が地域や関係者間で共有できず、災害時や見守り等において困難

様々な福祉の担い手・支え手（人材）の不足

< 個別課題 >

自治会加入者の減少（役員の忌避）、地域でリーダーシップをとる“うるさい”人がいない
社協の会員・会費収入の減少

在宅支援を行う薬剤師の不足（これから）、薬剤師会としての取組における会員の不足

障害があっても地域で暮らし続けるための支援者の不足

保育士の不足、質の確保も難

待機児童（特に0歳児・1歳児）、多様な保育ニーズ（一時、緊急預かり等）、子どもの虐待

地域で子供をみない、隣近所で遊ばないため、子供の居場所（学童、中高生の居場所）の不足

認知症の人の増加に対し、一般市民の認識・理解の不足

(2) 課題解決に向けて必要と考えられる取組

< 共通課題の解決に向けた取組 >

「情報が欲しい」「仲良くしたい」という潜在的な欲求を満たす（参加しやすい）、普段からの小地域活動、共通の趣味・テーマ等での活動を端緒とした、無理のない、支え合える体制（共生社会・新たなコミュニティ）づくり。そのためのキーマンの発掘・確保

日々の暮らしにつながる、小地域での個々の人のつながりづくり

各種団体・組織間での活動状況や情報の共有（横連携）、そのためのコーディネーター（市職員OB等）の確保

情報共有に関する規定づくり

< 個別課題の解決に向けた取組 >

社協の認知度の向上

ボランティアの確保

資格未保有者でも早期に確保・育成

養成校との連携、潜在保育士の発掘、待遇改善

多様な保育サービスや、地域への出前支援。それらを通じた虐待の早期発見

認知症の人の尊厳を守った共生に向け、一般市民の啓発

グループ :教育関連

(1) 今後も引き続き、市内で事業を展開していく上での課題

<共通課題>

小学校・中学校・高等学校・大学等の連携・交流が不十分
教育機関にとって基盤となる子育て世代の呼び込みが不十分
教育機関の地域貢献的側面が不十分

<個別課題>

大学のグローバル化に伴い留学生も増加しているが、地域の受入れ態勢や宿舍が不十分
ソフト・ハードの両面で文化的な活動に対する支援が不十分
インターンシップなどは国立市内に企業が少なく、市内で完結するには不十分

(2) 課題解決に向けて必要と考えられる取組

<共通課題の解決に向けた取組>

小学校・中学校・高等学校・大学等でそれぞれ異なる教員やカリキュラム、施設を有するため、不足する資源を認識し、弾力的に資源が共有できる仕組みを整備
教育機関の競争激化に対応し、安定的な経営基盤を確立するため、入学者確保の基盤となる子育て世代の呼び込みを政策的に推進
学校の施設開放の拡大や専門教員による中小企業等へのコンサルティングを推進

<個別課題の解決に向けた取組>

留学生の宿舍確保に向けた空き家情報の共有や空き家の活用を推進
財政との兼ね合いも踏まえながら、文化的な活動に対する支援を推進
国立市内の様々な企業でインターンシップを行えるよう、企業の開拓支援を推進
中高連携の際に、教育委員会の調整が早く行われるよう、対応方針を明確化

グループ :まちづくり関連

(1) 今後も引き続き、市内で事業を展開していく上での課題

<共通課題>

メンバーの固定化（世代交代が進んでいない）、既存のメンバーが新たなメンバーを受け入れられない

中間支援団体に対する行政側の認知度の低さ

行政・民間を含めた関係団体間の横の連携が不十分

<個別課題>

既存の大規模住宅団地における住民の減少や高齢化に伴い、売り上げが減少（又は伸び悩み）

農地の減少や従事者の高齢化による取り扱える農産物の生産量や種類が減少

子ども・子育て支援新制度への対応

学童保育に毎日通う児童数の減少

(2) 課題解決に向けて必要と考えられる取組

<共通課題の解決に向けた取組>

団体の自助努力だけでは解決が困難な課題であることを踏まえ、行政と団体が課題を共有するための場を設置

課題は 10 年前から顕在化しているにも関わらず未解決のままである。市民主体のまちづくり活動について、行政としてどのようにしたいのか方向性を明確化

活動メンバー同士のコミュニティの促進

<個別課題の解決に向けた取組>

学校の栄養士からの要望を踏まえた取引農家の拡大

取組に賛同してもらえる農家の輪の拡大（行政がコーディネーターとしての機能を発揮することは可能か）

既存の大規模住宅団地の建替えによる、新規住民の流入やメンバーの世代交代の促進

店舗の後継者との交流を通じた、メンバーの世代交代の促進

子ども・保護者・運営側の 3 者にとって最良となる子ども・子育て支援新制度の運用

以上

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区：一小]

まちの課題		解決策・取り組み	
No.			
1	自治会の加入率が低いのが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市職員と自治会役員がペアを組んで自宅を訪問し、加入をお願いしていく。 ◇ 住宅の開発業者に自治会加入を促してもらう。 ◇ マンション等の管理組合ごと自治会に加入してもらう。(ただし、個人の意識が希薄になる等課題もある) ◇ 自治会に加入することによるメリットを作る。(情報提供や食事提供など) ◇ 自治会として根気強く繰り返し訪問する。 	
2	道路環境が悪く(道幅が狭く)交通量も多いため交通渋滞がしばしば起こる。スクールゾーンもあり危険である。		
3	自治会の区割りと子ども会・学校の区割りが異なるため連携が取りにくい。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自治会の境界に沿って学校区を再設定する。(避難所の区割りも課題) 	
4	加入者の減少により自治会費を値上げしなければ運営できない。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 資源ごみの回収で自治会費の補助を検討する。 ◇ 逆に自治会費が安いことをアピールして、加入者を増やす。 	
5	自治会の加入促進にあたって個人情報の取扱いが壁となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 一度名簿として冊子化したら、後は回覧して記入しても良い人だけ記入してもらい更新していくしかない。 ◇ 本当はあってはならないが、大きな災害を経験すれば意識も変わるのではないか。 ◇ そもそも強制ではない以上、名簿の作成には、限界がある。 	
6	新規の自治会加入者がほとんどいないため、加入者の高齢化が深刻化している。		
7	駐車場が少なく、違法駐車が常態化している。車両へのイタズラ等の治安悪化が心配である。		

8	<p>浄水公園内のトイレに照明が設置されておらず、夜間の使用が危険である。</p>	
9	<p>地域の街灯が故障により撤去されたが、その後、再設置されな いままですべて暗くて危ない。</p>	
10	<p>久保町内会の区域内には公園が整備されておらず、整備が必要 である。</p>	
11	<p>地域の相談するためにも自治会同士の交流が大切である。特に 遠く離れた他の地域の自治会との情報交換は大変貴重である。</p>	

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区：二小・八小]

まちの課題		解決策・取り組み	
No.			
1	高齢化が急速に進行している (夫婦ともに高齢の世帯や、配偶者がなくなってしまった独居老人が増えてきている)		
2	高齢化の進行により、出歩けなくなるなどで、自治会の旅行などの催しへの参加が減少している		
3	盆踊りなどの催しへの参加率も減ってきている	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々な取り組みをメニュー化してわかりやすく情報提供している ◇ お祭りなど、子どもが楽しめる催しを行うことで、子どものころからよい思い出を自治会に持ってもらう。(自治会の文化をつくる) ◇ 全ての基本である挨拶を大切にすることで、関係づくりを行っている。 ◇ 夫婦間でも、自治会活動の内容などを共有する ◇ 町内の地図に会長宅などを記載したものを作成し、配布する【実際に作成途中】(市役所には、印刷の支援等をしてもらいたい) ◇ 自治会長宅に札をつけるようにする 	
4	世代交代がうまくいかず、自治会内の関係が希薄化している		
5	若い人が役員になりたがらない (若い人に主体的に地域づくりにかかわってもらい、高齢者はそれを支えるようにしたいが、なかなかそうならない)		<ul style="list-style-type: none"> ◇ お祭りなど、子どもが楽しめる催しを行うことで、子どものころからよい思い出を自治会に持ってもらう。(自治会の文化をつくる) ◇ 一人若い人がなってもらい、その人が、友人を誘い、活性化するようにする。
6	自治会の後継者が育たない (核家族が増えていることから、育成も難しくなっている)		<ul style="list-style-type: none"> ◇ お祭りなど、子どもが楽しめる催しを行うことで、子どものころからよい思い出を自治会に持ってもらう。(自治会の

		文化をつくる)
7	自治会の加入率が低い	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 新しく引越してきた方に、ご近所の方からすぐにお誘いをするようにしている。 ◇ 全ての基本である挨拶を大切にすることで、関係づくりを行っている。 ◇ 市役所の市民課において、転入者に、防災について、地域コミュニティについて、老人会などの組織について、などレクチャーをするようにしてほしい ◇ 市役所の市民課において、相談するべきところとして自治会を紹介してほしい(そのため、市民課に自治会長のリストを渡すべきである。)
8	マンション住民が、管理組合で固まってしまい、自治会に参加しないため、加入率が低くなってしまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々な取り組みをメニュー化してわかりやすく情報提供し、加入してもらうように呼びかける。
9	西地区に交番がなく、防犯上の不安がある。 (地区を管轄する交番がどこか知らない人も多く、相談しにくい)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市役所において、交番の誘致を呼び掛ける ◇ 市役所において、地区を担当する交番がどこであるかを周知する ◇ 自治会においても、回覧板や戸別訪問等で、担当交番の周知をする。
10	空き家が増えてきており、防犯面で心配がある	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自治会で巡回等をしている
11	空き家が増えてきており、空き家へのごみをポイ捨てが問題となっている	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自治会で巡回等をしている。
12	防災の観点から、区域内の住民・家族構成の把握などをしたいが、留守宅も多く、なかなかままならない	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 防災倉庫の点検などの重要なお知らせ・催しのお誘いは全戸配布し、住民の防災意識の啓発を図る

13	学校別の防災マニュアル（避難所運営マニュアル）を作成したが、防犯協会の意見が入っていないのが気がかりである	◇ 入れてほしい
14	学校別の防災マニュアル（避難所運営マニュアル）を作成したが、住民に周知されていない	◇ 市役所として、周知に努めるべきである ◇ 自主的な勉強会を開催した
15	自治会のお知らせ（回覧板など）が滞る	◇ 重要なお知らせや、大きな催しのお誘いは、回覧板ではなく、全戸に配布するようにしている
16	育成会と自治会のコミュニケーションが不足している（自治会には二小の子も八小の子もいるが、お祭りは二小しかやらないなど）	◇ 自治会役員で双方に参加する人がいる場合、育成会活動に熱心な人を自治会に勧誘する

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区：三小・五小]

まちの課題		解決策・取り組み	
No.			
1	自治会の加入率が上がらない。全市的な課題であろう。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 新入居者にはすぐに加入の声掛けを行う。 ◇ 市報において、自治会の紹介（例えば、自治会加入のメリットや普段の活動の様子を紹介するなど）することにより、自治会加入につなげる。 ◇ 市のホームページに各自治会の紹介ページを設けることにより、自治会の様子を伝え、加入につなげる。 	
2	高齢の方など一人暮らしの方については、病気など気づく人がいないので、配慮が必要である。		
3	高齢者やしょうがい者、持病を持つ方など災害弱者への対応が必要である。ただし、地域で助け合うにも、昨今は個人情報取り扱いの問題などで障壁がある。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 民生・児童委員や日赤奉仕団の方も一緒に活動を行い、地域全体で取り組む。 	
4	国立第三小学校内の防災倉庫内の毛布が古く、汚れや匂いなど使用できるものではない。使えないものを置いていても意味がない。第三小学校の防災倉庫は、学校の空き教室を利用してあるので、自治会が自由に出入りできない点でも空気の入れ替えもできず問題である。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 毛布などの備蓄品は、計画的に定期で入れ替えを行う。 	
5	国立第一中学校は、用務員が二人いて学校周りの清掃を行っているが、国立第三小学校に周りは、清掃が行き届いていない。地域の構成員として、2週に1度でも月1度でも清掃をきちっと行うべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校と連携して児童・生徒による清掃活動を実施する。 ◇ ごみ0運動には、家族で参加される人もいるので、そのような運動による清掃活動を行う。 	
6	地域住民同士がお互いのコミュニケーションを取れていない。	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域のイベントなどで顔を合わせる機会を増やしていく。 	
7	東地域には集まれる場所がない。会員数の多い自治会にはそのような場所が必要である。		

8	自治会費が低額でも加入してもらえない現状がある。	
9	駐車場がなく不便である。	
10	高齢の自治会員が回覧板も回せないということで、退会されてしまうケースがある。	
11	自治会内でも行事に参加される人が限定されてしまっている。多くの方に参加していただき、イベントを担ってもらえるようにしていく必要がある。	
12	市への要望が実現しない。(具体的な話を聞けず)	
13	市からのチラシ(その場ではごみ減量のもものが例示された)が毎年同じもので、工夫がないため、配布する意味がない。	

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区：4小学区]

まちの課題		解決策・取り組み	
No.			
1	会員の防災に対する関心が薄い。	北地域には防災に関する先進的な取り組みを行っている自治会がある。そうした事例を他自治会に広げていくことにより会員の防災に関する関心を高めていく。 日ごろからの親睦が、いざというときの防災力につながる。 緩やかな運用とすることが大事。例えば、班長になることが負担で自治会をやめてしまうような場合は、個別事情を勘案して、班長にならなくても良いから自治会にはとどまってもらうことを認めても良いのではないか。 誰が役員になっても自治会の運営ができるような仕組みづくりが必要である。	
2	自治会役員のなり手がいない。	「災害時の見守り」を「平常時の見守り」にシフトしていく。 いきなり大きなことをしようとすると長続きしないため、負担の少ない取り組みとし、継続して続けられるようにする。 見守りをする際には、民生委員と連携して行う。 家から出てこない人に対しては、顔を合わせるきっかけづくりが大事になってくる。 70歳以上の会員に景品を渡し、敬老のお祝いをしている。	
3	会員の高齢化・孤立化が進んでいる。		
4	中央線沿いにできる側道の交通対策がどうなるか不安だ。 北地域は南北の道路が整備されておらず、狭い道路が多い。 北大通りの国分寺市境が整備されていない。また、立川市側が貫通していない。		
5	公園に隣接しているので、夜間の騒音、ボール遊び、花火といった公園に起因するトラブルがある。	行政・警察と協働して、夜間のパトロールをする。 ボールが入ってこないようなフェンスを設置してもらう。 公園利用者にマナーアップを呼びかける。	

		他に子どもが遊べる場所を作る
6	国立市の財政を考えると、赤道の処分により歳入を確保する必要がある。	
7	近所付き合いが薄れてきた。	中央線の高架化に伴い側道ができる。その花壇の手入れを近隣の住民が行うことにより、近所付き合いの機会を作っていく。
8	道路添いの植栽に、ごみが捨てられている。	
9	スピードを出し過ぎの車や、交通マナーを守っていない自転車がいて危険である。	
10	自治会組織のない地域がある。	
11	行政境における行政の連携が悪い。	
12	高層マンションの組合と自治会のつながりが少ない。	
13	自治会に入ってくれない人がいる。	自治会加入を促すパンフレットを作製したので、国立市で印刷してほしい。
14	見守りをしようとしても個人情報情報の壁がある。	

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区： 六小]

まちの課題		解決策・取り組み	
No.			
1-1	<p>自治会の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会加入率低下が問題になっている。 ・会長、副会長のなり手がいない。 	<p>都営矢川北アパートなど団地によっては、全員加入が必須である。</p> <p>自治会連合体をつくり、強制的に加入させる。空白でありながら温かみのある集まりが大事と思う。集まって地域で困りごとを相談して、拘束力の弱いゆるやかな組織を目指すべき。</p>	
1-2	<p>コミュニティの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティが希薄になることで、孤独死の問題がでている。 ・バザーやイベントなどは多くの人が集まるが、一過性で終わってしまうためコミュニティに結び付かない。 	<p>コミュニティを強めるためには、防災を中心に考えるのが良い。</p> <p>矢川の川掃除や子ども川遊びなどイベント参加人数は多い。</p>	
1-3	<p>プライバシーの問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの問題があり、連絡用の名簿が作成できない。 ・名簿作成が、振込詐欺など犯罪につながってしまう恐れがある。 	<p>名簿の記載事項をグループ分けして、プライバシーの度合いで分けて、どこまで書くか書く人が判断してもらう方法も良い。</p>	
1-4	<p>情報連絡についての問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会同士の連携(横のつながり)がない。 ・掲示板が地域になく、情報伝達がうまくいかない。看板を立てる土地が欲しい。 	<p>自主防災組織は、横の連絡がある。</p> <p>自分たちの身近な問題であるせいによく機能している。</p> <p>市から自治会への情報、自治会から市への情報と情報共有が大事である。</p>	

2	<p>道路の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京女子体育大学への道が暗い ・安全の問題や騒音の問題から、さくら通りと都市計画道路 3・3・15 号線がどうなるか心配に思う。 ・狭い道路があり、車同士がすれ違えず不便に思う。 	無回答
	<p>質疑</p> <p>自治会加入することで、災害時に食料配給優先等の待遇が可能か。</p>	

総合基本計画策定に係る地域懇談会 意見まとめ

[学区： 七小]

まちの課題		解決策・取り組み	
1	・ 自治会・町内会の運営が大変である	◇ 「楽しい自治会」をモットーにし、運営を行う	
2	・ 新規加入者が少なく、自治会・町内会会員が高齢化している	◇ チラシを配布し、会への加入を促す ◇ 突然訪問して加入をお願いするのではなく、コミュニケーションをとってから会への加入を促す	
3	・ 自治会・町内会への加入をお願いしたくても、アパートの居住者が把握できない	◇ アパートの入居条件に会への加入を明記する	
4	・ 新規会員が自治会・町内会活動に無関心である	◇ 「楽しい自治会」をモットーにし、運営を行う ◇ 楽しいイベントを開催してコミュニケーションを図る	
5	・ 隣近所との付き合いが希薄となっている。住民同士・会員同士のコミュニケーションが不足している	◇ 日頃のあいさつから始める ◇ 楽しいイベントを開催してコミュニケーションを図る	
6	・ 居住者の孤立化が進んでおり、見守りや声掛けが必要	◇ 楽しいイベントを開催してコミュニケーションを図る ◇ 「楽しい自治会」をモットーにし、運営を行う	
7	・ 一人暮らし高齢者が増えている	◇ 楽しいイベントを開催してコミュニケーションを図る	
8	・ 団地内に居住する外国人のマナーが気になる		
9	・ 団地内で学区が分割されている		
10	・ 団地の空き室が増えている	◇ 団地（UR）に大学生が入居できるようにする（市もそのための支援をする）	
11	・ 防災対策（市の指定する避難所が遠い場所にある）	◇ 市の防災訓練に参加するほか、独自の防災訓練を実施する	

12	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路がはっきりしていない 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 通学路であることの標識を設置し、あわせて周知を図る
13	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路が危険。交通事故が発生している場所への対策（大山道坂下のT字路） 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 通学時の児童・生徒の見守りを継続する ◇ 1つの自治会だけでなく、多くの自治体がまとまって行政や警察に要望する
14	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯が少ない（防犯への対策） 	

各種懇談会 意見を踏まえた今後の重点課題

< 1. まちづくり全般(2. 以降の各分野に共通する課題) >

	住み、働き、学び、集う場として、より多くの人々から選ばれ続けるよう、国立市ならではの魅力や特徴を大切に守り活かし、ハード・ソフトの両面から市のブランド力をより効果的に高めていく必要があります。
	今後ますます多様化すると見込まれる地域課題の解決に向け、自助・共助・公助をバランス良く組み合わせながら、より広範な分野において、市民との連携・協働に根ざしたまちづくりを強化する必要があります。
	少子高齢化の進展等の社会経済状況の変化に伴い、今後さらに歳出の増加圧力が高まると見込まれる中、市政経営の持続性を確保するため、市全体からみた重要性や緊急性、波及効果等を十二分に勘案しながら、限りある行政の経営資源をより効果的かつ効率的に配分する必要があります。

< 2. 健康づくり・福祉 >

	関係機関との連携・協働のもと、高齢者が住み慣れた地域の中で、いつまでも安心して暮らしていることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援サービスの一体的な提供を目指した地域包括ケアシステムの構築を推進する必要があります。
--	---

< 3. 子育て支援 >

	より多くの市民が安心して子どもを産み、育てることができるよう、地域全体で次代の国立を担う子どもたち一人ひとりの健やかな成長を促すための環境の充実を図る必要があります。
--	---

< 4. 学校教育 >

	文教都市としてのブランド力をさらに高め、市外からより多くの子育て世代や働き世代を引き込むことができるよう、学校教育の質の向上に取り組む必要があります。
--	---

< 5. 生涯学習・スポーツ・歴史・文化 >

	学習・スポーツ活動に対する多様な市民ニーズに応えるため、既存施設の機能を適切に保ちながら、気軽に学習・スポーツに親しめる活動機会や活動メニューの充実を図る必要があります。
--	---

< 6. 産業振興 >

	市内でより多くのお金が産み出され、消費されるよう、地域のやる気と創意工夫のもと、個性豊かで魅力ある商店街づくりを積極的に支援する必要があります。
	地域の課題を地域の力を活用して解決していくための方策の一つとして、コミュニティビジネスの振興を支援する必要があります。

< 7. 防災 >

	より高い実効力を伴ったかたちで効果的に地域の防災力の向上を図るため、地域住民の常日頃からの防災に対する意識を高めていく必要があります。
	地域で共に助け合う共助に根ざした防災体制の確立に向け、防災マニュアルの周知徹底や災害時要援護者に対する情報伝達体制の強化等に取り組む必要があります。

< 8. 防犯 >

	市民の日常生活の身近な場で発生する犯罪を未然に防止するため、ハード面から犯罪の起こりにくい環境の充実を図る必要があります。
	地域主体の防犯まちづくりの促進につながるよう、様々な媒体を活用した防犯情報の提供充実を図る必要があります。
	高齢者を中心とした犯罪弱者が犯罪の被害者となることを未然に防止するため、地域ぐるみによる防犯活動を強化する必要があります。

< 9 . 地域コミュニティ >

	より多くの市民が地域のコミュニティ活動に関心を持ち、より気軽に参加することができるよう、活動に参加するためのきっかけづくりや活動に関する情報提供の充実を図る必要があります。
	自分たちのまちは自分たちで良くするための地域力や地域同士のつながりの強化につながるよう、地域が主体的に地域課題の解決に取り組む環境づくりを推進するとともに、団体間の情報交換・交流を促進する必要があります。
	各地域の特性に応じたコミュニティ活動を促進するため、それぞれの地域の主体性やニーズを踏まえ、きめ細かな活動支援に取り組む必要があります。

< 10 . 市民協働 >

	様々な面で市民との連携・協働に根ざしたまちづくり活動の輪が広がるよう、地域住民と行政が地域が抱える様々な問題・課題を共有する場の充実を図る必要があります。
--	---

< 11 . 交通 >

	将来的な人口構造の変化や各地域の特性・ニーズを踏まえつつ、来訪者を含めたより多くの人々が利用しやすい公共交通の環境づくりを推進する必要があります。
--	---

< 12 . 生活環境整備 >

	より多くの市民が安全・安心で快適に暮らすことができる生活空間となるよう、市街地の質的な改善や都市機能の向上を図る必要があります。
--	--

< 13 . 景観 >

	来訪者を含めた多くの人々に国立らしさを深く印象付ける貴重な地域資源の1つとして、各地区の特性に応じた秩序ある建築を誘導し、良好な街並みの維持・形成を図る必要があります。
--	--

< 14 . 道路 >

	子どもから高齢者まで市民の日常的な暮らしを支える生活道路の安全を確保するため、歩道空間の確保や街路灯等の交通安全施設の整備を計画的に推進する必要があります。
	歩行者と自転車が相互に安全に通行できる交通環境の充実を図るため、自転車駐車場や自転車レーン等の整備を推進する必要があります。

< 15 . 環境 >

	次世代に継承すべき貴重な財産の1つとして、多様な主体との連携・協働により、市内に残されている貴重な自然環境の保全や再生に取り組む必要があります。
	社会経済状況の変化に伴い、今後ますます多様化していくと見込まれる環境問題の解決に向け、市民の関心や理解をより一層深め、問題解決に向けた主体的な取り組みを促進する必要があります。

< 16 . 行財政 >

	市民にとってより便利で親切的な市役所の実現に向け、全庁的に窓口サービスの質の向上に取り組む必要があります。
	より良い地域社会の創造に向け、市民と市役所が共に考え、行動するまちづくりを着実に推進していけるよう、双方向型の情報提供体制の充実を図る必要があります。

< 17 . その他 >

	少子高齢化の進展に伴い、今後、深刻化することが懸念される空き家問題の防止を図るため、その実態を的確に把握した上、空き家の適正管理を促すための規制誘導方策の導入に取り組む必要があります。
--	--